下水道工事での事故を踏まえた公共工事の安全対策検討委員会

（第１回）

開催結果概要

議事概要

日本下水道協会における下水道事故防止の取組、事故当日の気象情報、下水道事故の事故概要などについて各委員から説明を行ったのち、意見交換が行われた。

今後の安全対策の検討に向けて、主に以下の意見が出された。

〇大雨注意報・警報の発表基準は、下水道管の排水能力を超えて、人家等に浸水被害が一定規模生じることを予見して発表しているものであり、時系列的には遅れて発令されるものなので、注意報等の発表だけを作業の中止基準とすることは望ましくない。

〇気象情報の収集方法として、大雨注意報・警報や浸水キキクル等の活用が考えられるものの、局地的に発生する積乱雲の発生予測は難しい。

〇作業従事者の中に外国人が含まれる場合、日常会話はできても重要な情報伝達ができない可能性があることから、回転灯など言語以外の伝達方法をしっかり研修することが重要。

〇作業従事者が入れ替わる現場もあるので、日々の朝礼でリスク情報や、避難方法などの情報共有を都度図ることが重要。

〇計画段階では様々な安全対策が定められているが、どう現場に反映するかがポイント。研修会や日々の朝礼などで繰り返しリスクを伝え、周知することが重要。

〇ひとたび雨が降ったら直ぐに避難行動をとる必要がある。

〇その他、事実関係の確認が行われた。

など